

第 6 4 回全国社会教育研究大会広島大会

概 要【1 日目】 1 0 月 2 7 日（木）

1. オープニング（1 2 : 3 0 ～）
2. 全国社会教育委員連合表彰（1 3 : 3 0 ～）
3. 記念講演（1 4 : 0 0 ～）
演題：広島サッカーの軌跡～百万一心の精神でつくる広島の未来～
講師：(株)サンフレッチェ広島 代表取締役社長 仙田 信吾 氏
4. シンポジウム（1 5 : 3 0 ～）
テーマ：これからの時代を見据えた学びのデザイン
～ニューノーマル時代における社会教育の在り方～
5. 終了（1 7 : 0 0）

【2 日目】 1 0 月 2 8 日（金）

1. 分科会（9 : 3 0 ～）
第 1 分科会：テーマ「地域学校協働活動による地域力の向上」
2. 終了（1 2 : 0 0）

所 感

初日、オープニングアトラクションとして、広島県北広島町劇団「くむくむ」によるオンラインお芝居「オオサンショウウオのみどりのサンちゃん」が上映された。

次に、各地域で社会教育に尽力された功労者に対する表彰が行われ、香川県は 1 名の方が受賞された。

シンポジウムでは、文部科学省国立教育政策研究所統括研究官の志々田まなみ氏がコーディネーター役を務め、「これからの時代を見据えた学びのデザイン～ニューノーマル時代における社会教育の在り方～」というテーマで、4 人のシンポジストによる討論が行われた。

最初に、各シンポジストから自身の取り組みについての発表があり、その後意見交換、討論が行われた。

静岡県裾野市東地区おやじの会の小田圭介氏の事例発表で紹介された、「何もしない合宿」は、ただ体育館を開放し子どもたちが思うままに遊ぶ合宿というものであった。

取り組み自体も興味深かったが、こういった活動に参加し、そこで出会った人たちと普段の生活の中で再び会うことで、「日常」でのつながりが生まれ、それが将来的にまちの活性化にもつながっていくというところが印象的であった。

また、特定非営利活動法人ひろしまジン大学代表理事の平尾順平氏より、市民誰でも参加可能な「市民大学講座」の取り組みが紹介された。

この講座は、ラマダーン体験やマンホール工場の見学、広島の特産品牡蠣のことをもっと知ろうといったバラエティに富んだ内容となっている。

興味深かったのはこの講座の企画方法である。講座のテーマについては、参加者のニーズに合わせるというよりは、企画者が思いを持って取り組んでいる活動や、知ってもらいたいと思うものを中心に選んでいるという。というのも、企画者はひろしまジン大学のスタッフだけではなく、講座に参加した人に次の講座の企画をしてもらうことにより、このような様々なジャンルの講座を実施することができるのだという。

よく一般的にみられるような講師がいてそれを受講者が聞くという形式ではなく、受講者が講師となりまた講師もいち受講者になるというスタイルを取ることで、学びの場をサービスの場にさせないという(参加者がお客さんにならない)主催者の意図が感じられた。

2日目の分科会では、青森県つがる市社会教育委員長の葛西貢造氏より、「学校を核とした地域づくり」というテーマで、地域学校協働活動を通して、「学びあい、支えあい、高めあう」地域づくりを目指して、学区支援ボランティア、自治会、社会教育団体など幅広い地域住民と協働しながら、子どもたちの成長につながる活動事例が紹介された。

また、高知県高知市立春野中学校校長小川真悟氏からは、「持続可能な地域とともにある学校の実現」というテーマで、学校運営協議会と地域学校協働活動のそれぞれの強みを生かした一体的な取り組みについての事例発表が行われた。

特に春野中学校の事例発表において、学校と地域が連携して取り組むにあたり、最初を目指す子ども像の策定と共有を図り共通の目標を決めておくという部分に、この地域学校協働活動の本質を感じた。

最後に、今回の研究大会に参加して、日々変化していく社会状況に合わせ、新しい社会教育の姿を模索していく必要性を強く感じた。コロナ禍の逆風をチャンスに変え、これからを見据えた学びを考えていきたい。